
宇和島市教育委員会会議録

平成 27 年 11 月定例会

平成 27 年 11 月 13 日開催

宇和島市教育委員会

宇和島市教育委員会 平成 27 年 11 月定例会 会議録

1. 開会日時 平成 27 年 11 月 13 日（金）15 時 59 分～

2. 場 所 宇和島市役所本庁 602 会議室

3. 出席者 教育長 織田 吉和 委 員 高山 俊治 委 員 廣瀬 孝子
委 員 木下 充卓 委 員 弓削 由美子

4. 欠 席 者 なし

5. 会議に出席した公務員の職氏名

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 教育部長 | 上田 益也 | 教育総務課長 | 横山 泰司 |
| 学校教育課長 | 岡本 一平 | 生涯学習課長 | 寺尾 利弘 |
| 中央図書館長 | 毛利 功 | 人権啓発課長 | 山崎 崇 |
| 文化・スポーツ課長 | 松本 隆夫 | 吉田教育係課長補佐 | 藤本 浩雄 |
| 津島教育係課長補佐 | 梶原 忠 | | |
| (事務局) | | | |
| 教育総務課課長補佐 | 土居 弘 | | |

6. 会議概要

(1) 開会宣言（午後 3 時 59 分）

◎教育長

ただいまから、教育委員会 11 月定例会を開会いたします。

それでは、会議に先立ちまして、一言ごあいさつ申し上げます。昨日は宇和島市防災教育推進連絡協議会がありました。宇和島市の警察署、消防署等の関係機関の方々をはじめとして市内の幼稚園、保育園、小中学校、高等学校の防災を担当される先生方に集まっていたいた広く宇和島市内で関係している先生方に集まっていたいた会議がありましたけれども、そこに愛媛大学で学校防災アドバイザーの高橋先生から講演をいただいたんですけれども、その折に、高橋先生が言われたのは、こうした防災教育も一番吸収してくれるのは小学生ぐらいだと。残念ながらその小学生が中学生になり、高校生になり、大人になると、だんだん指導したことが身につかないとか日頃の防災に活かしてもらえないのが残念だというようなことを言われておりましてけれども、そのへんいろいろ課題はありますが、ある面では一番理解してくれているそういう小学生、あるいはもう一歩下がって幼稚園、保育園の子どもたちにしっかり体で覚えるとか本当に身につく防災教育をしなければいけないと横で聞いていて感じたのが昨日の話です。

(2) 教育長報告

◎教育長

続きまして、教育長報告に移ります。出席参加しましたのが、まず10月2日の定例校長研修会がありまして、その折に今総合教育会議第2回に向けて教育大綱などを作成している段階であるということとか、私も教育長としては途中からですので平成27年度の教育の方針が進んでいるので、それに基づいた取り組みをしてくださいというようなお願いをこの校長会でしました。

3日の夕方、みどり寮で芋たき大会があって地区の方の協力をいただきながら住吉小学校、城北中学校の先生方もたくさん参加していただいております。

4日、「天の赦すところ」を見せていただきましたけれども、大変好評というような声が聞こえてきたイベントだったと思います。

8日、新しくなった吉田公民館で宇和島市連合婦人会の軽スポーツ大会というのがあって挨拶に行ったんですが宇和島市連合とはいいながら三間が脱退して吉田、津島だけの婦人会になっているというようなことをお聞きしました。

10日、宇和島市民文化祭の開幕イベントが南予文化会館でありましたが、そこでいろいろな音楽会、県警の演奏などもありました。

11日、岩松公民館で市のPTA研究大会がありまして、ここで挨拶で言わせていただいたのは、学力学習状況調査の中で小・中のこれぐらいの成績ですよということも言いましたが、それ以上に家庭学習が身につけていない生徒が多いということとか、あるいはスマホ等のそうした問題が生じているので保護者の皆さまお願いしますということとか、市のPTA連合会としても対策を考えていってくださいというようなお願いをした話をしました。

13日、市の陸上運動記録会が丸山でありまして途中からでしたが、参加させてもらいました。

14日、校長会長との会談ということで2人の校長会の会長と副会長が教育長室に来られまして市への要望といういろいろな施設等の改善や購入してほしい物について要望があったように思います。

18日、宇和島市少年柔道大会については先日お話ししました。

19日、地方創生に関する職員研修会で熊本大学の名誉教授の先生のお話でしたけれども新しい発想で考えていかなければということとか、その先生は「道の駅」を考えられた人だということを知り、この方がそうなのかと思ったのと、やはりこれからは65歳から75歳の先生の言葉ではプレミアム世代とか年のいった新人類とかいう言い方をされていましたが、そういう人たちの活用を考えていかなければいけないという話をされておりました。

20日、愛南町の城辺小学校でありましたが南予地区の人権・同和教育研究協議会に行ってきました。

21日、宇和島市の職員提案審査委員会、そして午後、戦没者戦災死者合同追悼式に出させていただきました。

23日、政宗（貞山）公御教諭石碑贈呈式ということで天守閣のほうに上がりまして大変すばら

しいものができておりますが、これについては是非市内の子どもたちもそれなりに小学校の高学年とか中学生あたりも機会を見つけて上がって、そういうものに触れてほしいなと思ひまして先日の校長会でもお願いしました。

24日、丸山球場でY E G杯の中学校軟式野球大会があつて開会式に臨んだところです。結果は三間中が優勝したというようなことを聞いておりますけれども。

25日、午前中は和霊公園をスタートにした宇和島市の駅伝競走大会がお昼頃までありました。午後はきさいや広場の市民ギャラリーでありました俳句大会に出席をして挨拶をしたり選句をしたりしました。

27日、総合教育会議の事前打合せがあつたりしましたし、少年補導委員の皆さまが集まる連絡協議会でお話をしました。これについてもスマホ等のマイナス面のことについてお話ししながら直接少年補導とは関係ないのですけれども、そういう方にも現状を理解していただきたいということでお話をしました。そして宇和島市総合戦略推進本部会議も途中から参加しましたけれども、なかなか地方創生という大きなテーマでいろいろな部署で取り組んでおられる様子を拝見しながらというかお話を聞きながらなかなか難しい課題があるなと思ひました。

28日、なかよし運動会が総合体育館でありましたが、市内の特別支援学級に在籍している小中学生の子どもたちが体育館で元気に活動している様子を見ました。

29日、宇和島地区犯罪被害者支援連絡協議会の打ち合わせのために担当者の方が来ていただいた分ですけれども、実際に会があつたのは先日の11月に入つてです。そして月例会がありました。

30日、愛媛県内の小中学校の教頭先生方が集まつた会が総合体育館でありまして、全体会に臨んだり、午後はそれぞれの分科会の会場がありましたので車で回つて巡視をしてきました。

31日、大名墓研究会というのがあつて現地研修が等覚寺と大隆寺でありました。私も興味があつて参加させてもらったのですが、滋賀県立大学の先生などが来られていて本当に興味深く2時間余り話をきかせていただいて、おもしろいなと思ひまして、次の日には2階の大ホールで実際に会があつたんですが、たくさんの、市民の方だけではなかつたかもしれませんが、市外の方も集まつて興味深くお話を聞いておられる様子を見ました。

簡単ではありますが、以上で報告を終わります。質問、意見等ありませんか。

◎高山委員

28日の「なかよし運動会」というのは特別支援学級の生徒とその担任と保護者とか集まつて行うのですか。

◎教育長

そこに校長も、用のない限りは全員が参加して一緒に競技を楽しんだり、子どもが走る様子などを見ていただいたり。ちょうど県のゆるキャラの「みきゃん」も来ていて、県のえがお体操もですね全員でやつて微笑ましい場面もありますし、「みきゃん」に飛びついてというか抱きついていくような子どもたちの様子も見られました。

◎教育長

他に、質問、意見等ありませんか。

— 委員からは特に意見なし。 —

(3) その他

◎教育長

本日、議案は特にありませんが、何か意見等ありませんか。

○教育部長

教育長。以前もお話しましたように議会の一般質問の中で、6月、9月の中で議員の方々からありました質問の中に学校の統廃合に関してございました。今の段階ではこういう風にするんだということは私は答えとして話はしなかったんですが、その時の対応としまして今後の進め方としては教育委員会としてどうするんだということもありましたので、これからについてはちょうど中間点に入り、これまでの経過もふまえたうえで対策を考えていくということで答弁しております。その中でいくら教育委員会の事務局といえども勝手には進めることはできないので教育委員の皆さま方の意見も聞きたいということでお話をしました。今日は議題がないので、ちょうどいい機会ですので良かったらそれぞれの委員さん方の御意見、今の思っておられるこれまでの統廃合を含めてなんですけれども、これからの統廃合の進め方として御意見を伺いたいなと思っております。その前にこれまでの統廃合の進め方、また今文科省が示しています手引き等について横山課長のほうから復習の意味も含めましてご説明させていただき、その後御意見いただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

◎教育長

それでは横山課長お願いします。

○教育総務課長

教育長。それではお手元にクリップ止めしてあります「宇和島市立小中学校適正規模、適正配置等に関する基本方針」平成22年1月7日に作成した資料がお配りされていると思いますが、まずおさらいなんです、現時点でこの基本方針に沿ってどういった統廃合が今まで進んでいるかということについて簡単に説明したいと思います。そもそも、この適正化の基本方針を作成するに至った経緯については「はじめに」のところにあるんですが、平成19年7月に市長より宇和島市の小中学校の適正配置、適正化等についてどうあるべきかのことに対する諮問を受けて、宇和島市学校整備連絡協議会が平成20年の2月にそれに対する答申を出しております。その時の答申内容は37校2分校の小学校を20校に再編、中学校については旧宇和島地区の4校を3校とするような組み合わせの試案を提示しました。その後、教育委員会がタウンミーティングや地区説明会等で保護者等と意見交換をしたうえで平成22年1月7日にこの基本方針を作成したという経緯でございます。2ページ目をお願いします。平成22年度当時として小学校について今後こういった推移になるであろうという予測をたてております。今年度まさしく27年度については当時3,677人になるであろうというところがございますが、表があるんですが、「平成28年度以降の新入予定児童・生徒数調」という表があるかと思っております。これが平成27年5月1日現在の宇和島市の小中学校の児童数、今後の児童数の推移を表したものです。平成27年度において小学校

の児童は5月1日現在では3,538人ですので22年当時の予測から100人以上もさらに減っているという現状がございます。中学校においては平成27年度においては南中等に行く生徒を考慮した人数なので奇しくもほぼニアリーな数字が出ているんですが、現在宇和島市の南中等を除いた6中学校の合計生徒数は1,681人で、南中等には毎年130人程度行っておられると思うんで390人くらいは宇和島市の南中等生がいるのではないかと思います。いずれにしても予想をさらに上回る加速で少子化が進んでいるという現状があるということでございます。3ページ目なんですけど、当時の基本的な考え方として、まず離島を除く全ての学校を統廃合の対象として検討を行いますということで、小学校につきましては標準学級で将来的に複式学級になり複式学級の解消が見込めないという学校については統廃合の検討の対象とします。中学校については全ての学年について2学級以上になるような検討を行いますということ、あとは旧4市町の単位でそれぞれの歴史的背景も判断材料の一つとして考慮しますというようなことをふまえて3番に統廃合計画案として22年度に定めた案があります。まず旧宇和島市の地区ですが、九島、戸島及び日振島を除くというのは先ほどの離島を除くというところで1点状況が変わったのは九島架橋が今年度末で架かって来年度から九島は離島ではなくなるというところで当時と状況が変わった点が1点あります。次に赤字で書いてあるところが当時の計画から既に統合が完了した学校を赤字で表しております。石応と小池小学校は平成24年度末に鶴島小学校に統合が完了しておりますが、当時対象校としてあげていた三浦小学校、結出小学校、蔦淵小学校についてはまだ未統合の状況でございます。続いて、吉田地区及び三間地区についてでございますが、当時としては具体的な学校名をあげて統合の予定校という形では示しておりませんでした。吉田も三間も吉田小学校、三間小学校以外のところについてはどんぐりの背比べ的に50~60人の人数で推移することがあるので当面の間は動向を見守るということで検討については保留したような状況で当時の方針はなっております。ただし、先ほど言いました28年度以降の児童数の推移を見ていただいたらと思いますが、吉田地区においても既に60人をキープできている学校は吉田小学校以外はなくなるのが現状でございます。三間地区においては成妙小なども平成30年度以降には50人を下回るというような状況が予想されております。続いて津島地区でございますが、津島地区が一番統廃合が進んでいるのですが、当時統廃合の対象となった学校が下に書いてある8校2分校あります。そのうち赤字で書いてある浦知、曾根、由良小学校、平井分校、須下分校につきましては平成23年度末で下灘小学校に統合をしております。南部小学校につきましては平成25年度末に岩松小学校と統合をしております。ここには離島である竹ヶ島が入っておりませんが竹ヶ島については今年度の卒業生をもって新入生がゼロということですので来年度は休校になる予定でございます。当時は畑地小学校を除くということで畑地小学校の児童数が、団地もありますので急激に減らないという予測をしておったんですが、先ほどの28年度以降の推移を見ていただいたらとは思いますが実際の話は畑地小学校は既に45人から50人を既に下回っておりますし、平成29年度からは30人台、31年には30人を下回る可能性もでてくるという状況で、北灘小学校は逆に当時統廃合の対象校となっておりますが、一旦逆に盛り返しをしまして平成30年度以降50人前後まで人数が逆に増える可能性が出てきて逆転現象が起きている状況があります。続いて中学校、5ページなんですけど、中学校につき

ましては先ほど言いましたように宇和海中学校だけが対象校となっております、これについては統廃合にかなり時間を要したんですが、平成26年度末をもって、1年前に島嶼部は半島部より先に城南中学校に校区替えをしたんですが、半島部は1年遅れということで宇和海中学校を26年度末に廃校とし、27年度から城南中学校に統合をしております。22年度から5年以上経過した基本方針ではございますが、まだこの方針に沿った統合が全て完了していないという状況もございますし、当時と児童生徒数の推移も若干変わってきているというところも今後見直しが必要になっていくであろうという風に思われます。続きまして、最後に抜粋資料としてつけさせていただきますのが平成27年1月27日に文部科学省が「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」という形で作成されたものでございます。これにつきましては次のページ6ページに学校の規模の適正としては文科省が考えるのは本来は12学級以上18学級以下が標準学級という文科省の考え方であります。ただ、その下回る学校についても地域の実情に応じてということで、その次のページにあります、小学校の場合1～5学級、複式学級が存在する学校については教育上の課題が極めて大きいため速やかに統廃合の適否について検討しなければいけませんよというような表現になっています。6学級についてはクラス替えができないということで、これは一般に教育上の課題があるけれども、今後将来的に複式学級が発生する可能性も勘案して、やはり適正規模に近づけるよう、これも適正規模を速やかに検討しなさいよというような表現になっております。7～8学級、9～11学級については、それほど強い表現ではないんですが将来的なことも含めて、やはり統廃合は検討すべきというようなことになっております。中学校につきましては1～2学級という中学校は現在存在しておりません。3学級というのものないのですが、4～5とか6～8というのが今の宇和島市の中学校に存在するところでございます。これについても今すぐ直ちというような表現ではなく将来を見据えて検討が必要ですよというような表現が文科省のほうからは示されているのが現状でございます。これを受けまして先ほど部長も言いましたとおり、22年に策定しました統廃合に関する適正規模・適正配置の基本方針を多少訂正する時期がきているように考えておりますので教育委員さんの意見を踏まえて、先ほど言った九島などの地理的要因の変化もありますので、これについては委員さんの意見もふまえて、またこれの修正方針なりを教育委員会なりに決定していく時期に来ているというふうに考えております。以上簡単ですが今までの経緯について説明を終わります。

○教育部長

教育長。各委員さんからそれぞれ御意見をいただくということでよろしいでしょうか。その前に一つ加えさせてください。先ほど横山課長から話がありましたように九島小学校につきましては架橋が年度末に開通することがありますので教育委員会事務局としましては今のところ28年度末をもって九島小学校を廃校にし鶴島小学校と統合という形で進めることで市長との協議を終えています。これに従いまして、本来、秋までには私が動こうかと思っただけなんですけれども他部署との調整もありまして、と言いますのは診療所の問題があったりごみの収集形態が変わったりとか幼稚園を今後どうするかというような微調整がありましたので来週再度庁内の協議を行いまして年内には地元のほうに方向性を示していくというような作業を進めていくということでござ

います。それともう一点、これから御意見を伺う前にですね参考になるかと思うんですけども、御案内のように昨年あたりから国のほうから地方創生という言葉でいろんな角度で交付金が宇和島市のほうへおりてきております。これに伴いまして総合戦略推進本部というのを宇和島市でも立ち上げておりまして我々も参画しておるんですけども目的とするべきところはですね流入人口の増加、移住・定住の促進等々の問題でありまして、ここに少子高齢化というのがですね加わるかどうかというのは別問題なんですけれども人口の減少を抑えるということが最大の目標であります。このまま行きますと数十年後には3万人台になるよというところがありまして、へたすると宇和島市自体がまた町になるということも考えられますが、そこを5万人前後に抑えていこうと、今8万人程度ですけれども、そのような目標設定をしていこうと思います。その中で合計特殊出生率が今1.6そこそこなんですけれどもそれを1.8ないし1.9にもっていこうというところで第2子・第3子を増やしていこうというような事業展開もしているところではありますが、これが功を奏せばですね今の子どもたちの生徒数・児童数がですね、やや安定してくるだろうと、減少傾向は否めないと思うんですけども安定するだろうと見込んでおりますので、この辺も念頭に置きながら御意見をいただければありがたいと思いますのでよろしくお願いたします。

◎教育長

今ほど上田教育部長、横山課長からいろいろ説明がありました。繰り返しませんけれども、それぞれの委員さんのお立場で、今の段階で言える範囲でというか、思われている範囲で結構だと思いますのでよろしくお願したらと思います。

◎高山委員

まず、22年に決めた三浦・結出・蔦淵小学校、これは早急に手をつけるべきではないかと私は思います。

○教育総務課長

教育長。私になってからはその3校の統合の話はしていないんですけども、以前、三浦地区には方針が決まったということで説明会はしているということで聞いています。当時としてはあまりいい印象ではなく反対の方が多かったという風には聞いておりますが、当時よりも今かなり人数が減ってます。ただ校舎が新しいのでそういう思いも多少あると思いますが、そこは校区で城東中学校に通っていますので統合校としては番城小学校ということになるかと思うんですが、そこは、宇和海中学校が城南にくつつくよりはハードルが低いのかなと思っていますので、これについてはできるだけ速やかに、今年はちょっと無理ですが来年度にはとは思います。結出と蔦淵に関しては宇和海中学校が統合した年度にすぐに翌年度小学校というのは地域にとってもかなり混乱をきたすということもあったので、今年1年はおいて来年この話については地元におろしていこうとは思っております。

◎高山委員

御植は以前から説明があったみたいに市長部局のからみで手をつけれんとかいう説明だったんですけど、それは今も一緒ですか。

○教育部長

結論が出ている話ではないんですが、御稜についてはやはり UJI ターンの関係とかですね地元
に定住されている方が2軒あります。小規模校ですが子どもたちもその自然の中で生き生きして
いるという話もありまして、話を聞きますと、やはり地域の皆さん方は保護者の意見を尊重した
いというようところで結ばれているようなので今の時点ではなかなか統合に向けてというのは
難しいだろうと、ただし、ここも耐震化が進んでませんからしばらく残すのであれば耐震化に向
けた対策をしなければならないという大きなテーマがありますのでしばらく様子を見る時間が必
要かと思います。

◎高山委員

吉田については前から小中一貫校で、小学校を吉田小にやっ、小中一貫でという話が前に市
長からもあったし、教育委員会でもあがっていたけど、吉田の議員さんとか地元の人意見がま
だ分かってないんだけど、そういうのが地元からあればそれも一考すべきじゃないかと思うん
ですけど。

○教育部長

教育長。今、高山委員がおっしゃったとおりですね、地元からそういう意向ですね、総意
としてまとめれば我々としても考える必要があると思います。ただし、この指針がでて以降、吉
田地区についてはほとんど教育委員会との意見交換というものがなされていませんから、タウ
ンミーティングの中でいろんな意見はあったというのは聞いてはおりますけれども、委員の皆さん
も御存知のように吉田の地域の4人の議員さん、それぞれが違う御意見を持っておられます。議
員の皆さんは市民の代表ですからまず保護者の方々の御意見を聞くという作業をですね行う必要
があるのと、現実に吉田地域にですね統合が必要なのかということも見極めなければならない
という2つの壁を越えなければならないかなと思っています。

◎木下委員

私は特に吉田のことを言おうかと思っていたんですけども、今言われたように吉田町の小学
校の統廃合をどう考えるかということは市長のほうからも会議の中でも求められましたし、それ
以前からもどう考えるのかということは私自身も聞かれて、それぞれ小学校へ通っておられる保
護者とか小学生ですと子どもに聞いてもなかなか分かりませんのでその保護者とかにいろいろ聞
いております。それと先ほど言われましたように各地区から出ている地域の代表者、議員さんの
意見もバラバラです、はっきり申し上げまして。少子化になって保護者の意見ですと、少子化に
なって1クラスに数人しかいない複式学級になって子どもたちの友達の数も少ない、同級生の数
も少ない、競争力もなかなか一緒に競り合って育つような環境にもないのであれば統合もやむを
得ないのではないかという保護者もいれば、やはり地域の各行事、運動会にしろいろんな地域・
学校行事にも各地域の住民の方それぞれの団体の方が参加して地域としての学校が成り立って
いるということで、できることなら伝統的にも百数十年続いた伝統がある学校なんで地域に学校は
残してほしいという意見もあります。特に吉田小学校の場合は今のところそういう問題がない
吉田地区においては統廃合に関する意見自体がないと思いますし、他の吉田の4地区の学校とは
また温度差が違うと思います。そこは間違いはないとこなんですけれども。ただ、本当にいろんな

意見が出ております。中で一つだけ言えるのは、その残った私の地元喜佐方・玉津・立間・奥南なり、もし仮に統廃合するのであれば2校が1校になるとか3校で1校にするのではなく、吉田で小学校1校にしてほしい、実際人数的にも多分地域活性化で子ども、私の子どもたちでもそうですけれども帰ってくる人がいるとしても極端に児童数は増えないとは思いますが、増えてもらうのが一番いいのですけれども増えないと思うので、もし仮に統廃合になるのであれば吉田で1校という意見はよく聞きます。それ以上の事はなかなか地域によって保護者の考え方によって本当に今の段階ではバラバラなところがあります。思いがそれだけ地域への愛着があるというところもあるのですけれども、そういうような状況で逆に言うと上からこう決まったという統廃合について前向きに考えていただけるのではないかと感じております。ただ、あくまでも私の個人的な見解です。

それとさっき言っていた文科省の学級数ですが、これは1学級40人という考え方ですか。

○学校教育課長

小学校1年生は35だと思えます。それ以外は40人です。

◎教育長

それでは、廣瀬委員さんどうですか。

◎廣瀬委員

津島のほうは下灘が統合してどういうふうになったかという、私はあまり聞いてはいませんが、スクールバスで結構長い時間通うので大変だという話はチラチラと聞こえてくるんですが、津島の場合は統合するとすれば岩松小に1つになりますよね、この感じでいけば。それだとあまりにも広いので、なかなか保護者の間でそういう意見も多分でてこないと思うので、もしそういう風に適正規模・適正配置ということが必要なのであればPTAなどで何かの機会にこうなったらこうなるんですよということを時々お話していれば、また少しは心構えもできてくるのではないかなと思うんですが。あと御槓小学校はもう全然定住促進のあれがあって難しいかなという保護者の反対、だいたい保護者の意見が大事だと思うので、地域に人はもちろん大事ですけど、通わせてる保護者の方々がどう思われるのかというのが私は大事だと思うから、保護者に対してこういう統廃合になりますということをお話しをずっと機運を醸成していくことが大事かなと思います。ちょっと津島の場合は今のところは難しいのかなとは思いますが、もしするとすれば北灘小学校が少ない時にそういう機運もあったんですけれども段々とまた増えてきていますのでちょっと難しいのかなと思います。

◎教育長

弓削委員さんどうですか。

◎弓削委員

この表を見たときに私の母校の高光小はどうなんだろうとまず一番に見たんです。やはり自分の卒業した小学校がなくなるのは寂しいなというのはあると思うんです。やはり一緒になっていいこともあるし、そういうことも保護者の皆さんに伝えてもらっても一緒になった時にこういったちょっと悪いこととか心配なこともあるかもしれませんというようなお話を、廣瀬委員

さんが言われたように急に言われたらえっと思うと思うので何かの折に言っていたら子どもも保護者も心の準備ができると思います。知り合いの子どもさんが小池小学校から鶴島小学校になられた時に原因不明で熱がでるんよということを聞いたことがあるんです。やはり今まで小さい学校でみんな知っているような家族ぐるみの学校に通われていたのにちょっと大きい学校に行って、そういう体の変化もでたりする子どもさんもいるので、そういう子どもさんも大切にケアしていってもらったらいいなと思います。以上です。

◎教育長

ありがとうございました。私はですね、先ほども出ておりました三浦・結出・蔣淵にも説明に行きましたですね。行ってあの頃はまだ説明くらいでしたのでそれほど厳しい反対の声とか意見などはなかったようですが、ちょっとありましたように三浦などは独特の、校舎が新しいということもありますし強く地元の方も残すというようなことで強い気持ちを持っておられるように今でも感じますけれども、あとの結出、蔣淵のほうはバスで、スクールバス等の問題で、どこに通わすのか、あの頃にでていたのが遊子になると結出の人、蔣淵の方らもちょっとどこかというたり、ある時には宇和海中学校に3校から来るようにしたらどうだとか等々と意見もありましたが、その後の詰めはされていないようでその頃の状況しかお話できませんけれども、ただ、最初に部長さんから話があった地方創生で人口流出を防ぐことで、ちょっと後ろ向きな考えかもしれませんが県内の合併をした地域の中で例えば広田村でしたか、そこらの庁舎等がなくなってどんどん、どうしても松山寄りのほうへ出てさらに子どもたちの数の減少が加速したということなどがあって、地方創生のことと今回の統廃合のことと一部矛盾というかそのへんはこれまでの創生会議で出たことはないのかなと思ったんですけど、そこらはどうですか。

○教育部長

学校の統廃合は、少子化というか各それぞれの学校の実態を議論したということはずなないです。冒頭に申し上げましたように宇和島市全体が人口が減っていくよというところから入っておりますので、人口流出、高齢化社会に対応しようと、宇和島をもっともっと全国にPRしようというところがありますので、ただ私が会議の中で主張しているのは、やはり全国一斉にこのような動きをしているので流入人口を多く求めても駄目だと、今ある、例えば子どもたちの目線でいくと小学校・中学校・高校でかかる学費のことを考えてあげたりとか一人親世帯が多いという現実もあってそこらへんで何か支援ができないかという所に視点を置きませんかという話をしたことでもありますし、それによって宇和島の子どもたちが安定した教育を受けられるというところに効果があるということになりますと出ていく人口は少なくとも社会減としての中で抑制できる材料になるだろうというような話はしました。これはむしがいいんですけども、宇和島はもしかしたらこの事業が成功しましたら宇和島はそういうことで子育て支援に非常に力を入れている町だということで近隣の市町からですね流入人口が増える可能性もありますし、UJI ターンを求められている方にとりましては子育てという意味で支援している宇和島ということでPRができるというような考えはあります。そんなところでこの結果がですね、どのような効果を産んでどのような社会現象が起きてくるかというのは本当に未知の世界なんでなんとも言えませんが、少なくとも

ここ数年間は地方創生による宇和島地域が活気づく事業をですね求められているのは間違いないと思っておりますのでその辺は気を付けていこうとは思っています。

◎教育長

そういう意味で先ほどから何人かの委員さんも言われました御槇小学校がやはりある面では今後の一つの流れの中でそういう小学校というか校区がでてくれば、今部長さんが言われたような形で結出であってもいいですし三浦小学校でもいいですがそういう形でここに入ってきてそこで子育てをしたいというような方が1人でも2人でも増えてきた時に果たしてその統廃合の件とどのようにすり合わせをしていくかということもチラッと思ったんですが、ちょっとずれてるかもしれませんが、そこらを今後の課題ととらえてよろしいんでしょうかね。それではこの件はこれでよろしいでしょうかね。

○教育部長

教育長。最後にすみません。それぞれの委員の皆さんにも御意見いただきましたので、節目節目でそういう話題を提供しながらやりたいと思っております。平成22年までの作業としては、ここにもありますように学校整備連絡協議会というのが立ち上がっておりましてそこで統廃合についていろんな協議を重ねていております。今後においてもですね、教育委員会が独自に進めていくというのはなかなか困難なところがありますので、そういうような第三者委員会を私は立ち上げていったほうがいいかなと思っておりますので、またその辺の御意見を聞かせていただければと思います。この点については以上です。

続いて、一つ報告があります。以前からお話してますように三間幼稚園と番城幼稚園の認定こども園化が現実に決まりました。来年の4月からということで番城幼稚園につきましては美德保育園との統園によりまして認定こども園になるんですが、これは幼稚園型の認定こども園になります。三間の幼稚園と三間の保育園が統園しまして、こちらは三間認定こども園という名称になっておりますが、こちらはどちらかというと保育園型のものになります。それに加えまして予想もしていなかった畑地幼稚園の園児数が激減しまして我々も昨年の段階ではここまで落ちると思っていなかったんですが、来年の見込みとしましては畑地地域の方が、畑地幼稚園分かりますか、津島なんですけれども、畑地幼稚園に在園している者が今は十数名おるんですけれども、現実問題として卒園者を考えましたら来年入園する見込みの園児がおりません。在園児としては年長の園児さんが1名になるという非常に厳しい数字ができてましてかねがね福祉課とも相談し協議を進めた中でですねやむを得ない措置として休園の方向で地元を何度か話をして何度か地元のほうに話をおろしましてですね回覧もまわし広報にも載せたんですが、来年度から2年間かけて休園の措置をとるということで決定いたしました。その後どうするかというのは協議のうえで決まるようになるんですがこの調子でいくとどうしても園児数が復元するということは見込めませんので岩松幼稚園に3歳児を受け入れるという体制を整えまして旧津島町の幼稚園は実質上2園で運営していくということになります。これが報告です。

それからもう一点最後なんですけど、以前もだいぶ前に話したんですけれども、この新しい地方教育行政法の中で一つ求められていることがございまして、これは総合教育会議の中でいろんな

議題がでてきますけれども委員の研修をなさいたいというようなこともあります。これは法律上の問題なんですけれども教育委員会事務局としましてもいろんな情報提供をそろそろしなければならぬとは思っているんですけれども、これから以降につきましてはですねそれぞれ分野を限って時間があればですね、この定例会の後を利用して話題提供しまして勉強会・研修会というような機会を設ければいいなと思っておりますので、また皆さんぜひこの点について勉強したいという事がありましたら御意見をお寄せいただければと思います。以上3点であります。よろしくお願ひします。

◎教育長

今の件で何かありませんか。

◎廣瀬委員

保育園型と幼稚園型の違いというのは。

○教育部長

幼稚園型というのは基本的に幼稚園に合併するということで、1号認定、2号認定、3号認定とあるが、基本的に1号認定部分というのは幼稚園でありなさいというのがあるんですけれども、教育の要領そのものは幼稚園教育が入ってくるんですけれども、ニーズの関係もあるんですけど、そういうのがあって制約があって保育園型、幼稚園型というのがあると、詳しい資料はまた渡します。

◎廣瀬委員

この前、三間幼稚園に通っている鬼北だったと思うんですけど愛児園の子が保育園型だと通えなくなると、でも幼稚園型だと通えるんですよ。

○教育部長

結局、本来は幼稚園というのはそれぞれの市町村が運営していくべきものでありますし、私立の幼稚園もあると。鬼北の場合はもともと幼稚園がないです、保育園しか。そこに愛児園から通いたいと言っていることがあるんで、もし通うのであれば一番近いところでは旧市内うちになるんですが、そこに来ていただくということになります。

◎廣瀬委員

わかりました。

◎教育長

他に御意見などありませんか。

— 特に意見なし。 —

◎教育長

それでは次回の日程について。

— 協議のうえ、教育委員会12月定例会を12月18日に開催することを決定する。 —

(5)閉会宣言（午後4時54分）

◎教育長

それでは以上をもちまして、教育委員会 11 月定例会を閉会いたします。